やつぱり彌太はんの友達で、到つて怖がり「ヨイショコショ……こゝの裏ハ嫌いや、化物が出ると云ふよつてに、彌太はん居なアるか、彌太はん留守かいな、彌太はん、戸が開いたあるのに、ゐらい暗らいなア、彌太はん〳〵、かんてきに火が起つてゐるのに、湯が沸いてる、アゝ重たい、かんてきと一緒に揚つてくる、アゝ恐い、彌太はん……、火を點すのにマッチが棚にある、コオツト、此の棚の隅に毎時もあげてある、有つた〳〵、オヤ〳〵〳〵、ひつついて取れへん、おかしい具合やなア、お佛檀にマッチが有るやろう、アゝ、疊に足が吸ひ着く、アゝこわ、彌太はん、彌太はん……」恐がつて居る、押入の中で、ふたりハ可笑しうてたまらん、エヘンと合圖をすると、こちらの八チャンが、待てましたと、チーン、モン〳〵、こゝぢやと紐を引つ張りましたから、お膳が、がら〳〵がちやーン。ヒヤアと、吃驚して、あわてゝ表へとび出すと、德利で頭を、ゴツン、アレイと後へ寄ると、撥みで、德利が、ゴツンー、二ツ頭をいかれた、外へ飛んで出ると、露路の眞ん中へ、腰を拔かして、平太張て仕まうた、處へ、歸つて來たのが、彌太はんの親方腦天の熊五郎と彌太はんと二人連れで、ろうじの中程まで來ると、人が、倒つて居る「唯れや」「アゝ、彌太はんか」「萬やん何を仕て居るね」「彌太はん、出た〳〵出た」「何が出たのや」「化物が出た」「そんな馬鹿な事が有るもんか」「そうかて出た、內らが眞つ暗らがりで、カンテキと鐵瓶が密着いて居る、マッチが取れん、足が疊に吸ひ付くと、チンモン〳〵モン、がらがつちやー、冷めたい堅い手で頭を二ツ

ゴツン、出た〳〵出た……」「そんなことが有るかへ　行け」「マア　彌太はんからお這入り」「這奴恐わがりやなア、アレ、出るときに、ランプに火を點して出たのに消へたアる」「消へたあるやろがな……」湯が沸いて居る、アレ　カンテキが付いてあがる」「マッチが棚に　密着いて居るで」「ホンに、取れんなア」「何を云ふて居る。俺が火を點けてやる、オイ彌太公、コレオ見てみイ、鐵瓶とカンテキと針金で括つてあるのや」「アゝ　化物が仕よつたんだすか」「何を云ふてるのや、棚のマッチが飯粒で密着けてあるのや」「疊へ足が吸付きます」「飯粒が撒いてある、膳やら茶碗や鉢が引つ操り返してある」「化物と云ふ者ハ　シヨムない洒落を仕よるもんやなア」「マダあんな事を云ふてよる」「ケドモ、出しなに冷たい堅い手で頭を二ツ毆りましたで」「馬鹿やなア　是れ見てみい、德利が吊つてあるがな、危ない事をしたものやなア、チョツト待て　ゐらい斡が聞こへるでー、ハテ、誰ぞ居るなよし、俺が探してやる、待てよ」熊五郎が上つて行きますと、押入の中の奴、先刻飲んだ一升の酒の醉が廻つて來た處から、好い具合に、寢て仕舞ふたのだす、それを聞付て熊五郎がソツと押入の襖を開けると、右の始末「オイ〳〵、彌太公、必配するな、化物の性體が分つた、化物は汝の友達やで」「ウダ〳〵云ひなはんな、私化物に友達なんぞがおますかいな」「マア〳〵上つて來い、コレを見てみい、汝の友達やろがな」「わての友達に化物がおますかいなア、アゝ八公と米公や、恁んな事をさらして、俺をビツクリさしやがつて、糞ツ垂レ奴が……、其所退いとくなはれ、毆つてやるのや」「コ